

〔特集〕

本特集の趣旨

——「働・学・研」協同の仕事・研究・人生アプローチ——

本特集は、17人の社会人研究者が、仕事・研究・人生について「働・学・研」協同の視点から深く考察したものである。

名古屋学院大学での27年間は、わが人生の壮年期（43～70歳）にあたる。それに先立つ製鉄所での21年、計48年を通して貫いたのは、「働きつつ学び研究する」という理念・人生スタイル（生き方、働き方）であった。それを、「働・学・研」融合と命名したのは、約10年前（2009年）のことである。そして今回、「働・学・研」協同として捉え直す。

その趣旨やスタンスを、本学での研究・教育活動において最も集約的に体现したのが、社会人・留学生への博士論文指導であった。

1999年に名古屋学院大学大学院経済経営研究科後期博士課程が開設され、20年になる。その間、30人の社会人博士を輩出してきた。私自身も産業システム研究指導にあたり、博士課程十名ゼミを開いてきた。十名ゼミから、14人の博士（課程博士11人・内留学生4人、論文博士3人）を送り出している。

博士課程十名ゼミは、産業システム研究会としてゼミOBや他ゼミ、社会人研究者などにも門戸を開いてきた。ゼミには、現役院生を中心に博士OB、社会人研究者、大学教員などが集い、毎回数本（多い時は10本前後）の報告があり、活発な議論が展開された。この20年間で、十名ゼミ生は現役院生を含め約20人（故人含

む）になる。研究会への総参加者数は30人を超え、2009年シンポジウムを含めると100人近くになる。

博士論文に一から挑戦し、働きながら様々な苦難を乗り越え博士論文を仕上げていく道のりは、人によって異なるも、それぞれが壮大なドラマである。道半ばの方、もう少しの方などのドラマも、手に汗握るものがある。それらに寄り添い、共に悩み喜びを分かち合いながら伴走してきた。その中心に位置したのが、現役院生たちである。そうした研究交流を20年間にわたり続けてこられたことは、今にして思えば珠玉の体験であり、奇跡の時空間であったと感じている。

中堅私学においては、学部教育や大学運営、学会活動などで精一杯である。そうした中であって、多くの社会人研究者や博士を生み出す壮大な交響楽を奏でることができたことは、奇跡といえるかもしれない。

わが「働・学・研」協同の半世紀において、この20年間にわたる博士課程ゼミはどのような意味をもつのか。そうした交流と研鑽を可能にしたものは何か。それは、筆者だけの思いであったのか。

産業システム研究会に参加した方々は、そうした体験をどのように受けとめてきたのか。彼らにとって、博士論文への挑戦や共有の体験はどのような意味をもち、彼らの仕事と人生にど

のようなインパクトなり彩を与えてきたのか。

そのような視点から、産業システム研究会(博士課程十名ゼミ)に参加した方々に、各位の仕事や研究、交流体験、思いについて綴ってもらったのが、本特集(第1・2・3部)である。寄稿者は、17人に上る。「働・学・研」融合の仕事・研究・人生」という共通テーマを軸に、各人各様の歩みや思いを自由自在に語っていただいた。

17本には、各位の多様な歩みや思いが込められており、3部構成として編集した。

第1部 博士論文が切り拓く社会人の仕事・研究・人生の新地平

博士(経営学)を取得された10人に、学位取得に至る道や仕事・人生にもたらしたインパクト、社会人研究者論などについて語っていただいた。最終稿として届いた順に配している。

- ・白 明:「働・学・研」協同でつかんだ夢の人生—自己実現から他者実現に向けて
- ・杉山友城:出逢いは宝
—この瞬間が「働・学・研」の場
- ・井手芳美:人生と仕事を切り拓く源泉
—働きつつ学び研究する意義と未来への展望
- ・太田信義:シニア時間を知的に楽しむ
—「働・学・研」で得た生き方
- ・古橋敬一:人と社会を見つめ、自らの人生を歩む—まちづくりで学び、働き、研究する
- ・櫻井善行:社会人研究者としての歩みとこれからの課題—博士論文完成までの経緯
- ・富澤公子:私の研究人生—塞翁が馬
- ・藤田泰正:“学び”と“実務”の相互啓発関係—ある産業用機械メーカーの再生事例をふまえて
- ・程 永元:「働・学・研」協同論における博士づくり一点・線・面の視点をふまえて
- ・納富義宝:「働・学・研」協同こそわが人生

—走り学んだ半世紀

第2部 仕事と博士論文への創意的挑戦

仕事をしながら博士論文に挑戦するなど研究にも精力的・創意的に取り組まれている6人(現役留学生2人を含む)に、仕事と研究人生の多彩な歩みや思いについて語っていただいた。

- ・片山勝己:自動車メーカーのエンジニアが考える「働・学・研」協同—定年退職を目前に控えての感慨
- ・熊坂敏彦:「循環型地場産業」研究への道のり—「働・学・研」協同の半生を振り返る
- ・渡部いづみ:学ぶということ、人を育てるということ—浜松地域の産業研究と教育への思い
- ・三輪昭子:上善は水の如し—一個人史の中で「働・学・研」を決めるとき
- ・程 遠紅:中日の懸け橋をめざす「働・学・研」協同の生き方と挑戦
- ・包 薩出栄貴:日本留学が切り拓いた研究人生への第一歩

第3部 「働・学・研」協同の理念と試み

わが半世紀の仕事・研究・教育人生を、「働・学・研」協同の理念に立ち返りつつ考察したのが、第3部である。

- ・十名直喜:「働・学・研」協同の理念と半世紀の挑戦—仕事・研究・人生への創造的アプローチ

第1・2部の多彩なドラマは、ここを起点にして生み出されたと感じている。

奇跡的ともいえる数々のドラマが、どのように生み出されたのか。その源は何か。本特集は、17人の仕事・研究人生論を手がかりに、その舞台裏と秘訣を浮かび上がらせようとしたものである。